

金沢宣言

多様性、ネットワーキング、持続可能性

2018年5月20日から22日、日独協会連合会および独日協会連合会により開催された『日独交流国際会議金沢2018』を契機として表明された日独協会および独日協会による宣言

日独両国の文化、政治、経済の基礎をなす価値と伝統は、我々市民にとって良い生活だけでなく、より良い生活を可能にする。この価値と伝統の発展のために重要な貢献をしてきたのは、長年にわたる両協会の交流である。この交流とそのさらなる発展に我々は責任を負っている。

それ故に我々は以下のことを目指す。

1. 我々の協会の枠を越えた共通のプラットフォームとネットワークを広げること

それによって我々は数多くの「一楽しくもある」共通プロジェクトと、少なくとも年に一度は定期的な直接的対話の実現に向けて努力する。その際に我々は次のことを念頭におくものとする。

- 我々に迫っているのは何なのか。どのような政治的、技術的、経済的な変化に直面しているのか。
- そのことから生じる社会的な変化に、我々はどのように対応すべきなのか。そのことに対して日本人はどう取り組めばいいのか、そのことに対してドイツ人はどう取り組めばいいのか。
- 我々は共同でなにを成し遂げうるだろうか。
- 我々は共同で見つけ出した成果を、相手とどのように共有させることができるのか。

2. 技術的可能性をより良く使うこと

そのためには我々はインターネット上のプラットフォームを設け、規則的な情報交換の道を探る（必要なら英語でも可とする）。

3. 若者の参加を支援すること

我々の協会の目的に共鳴し、我々にプロジェクトを提案し、それを継続し、遂行する若者を支援する。

4. **我々の価値、我々の文化、我々の関心についての対話を継続すること**
そうすることによって我々は、日独関係にとって市民社会の交流が格別の重要性を持っていることへの理解を促す。そのためには両国協会の垣根を越えた会議の可能性を探る。

5. **我々の協会とそのメンバーの数を増やすこと**
数の増大は必ずしも自動的に質の向上を意味しないが、それは関心の度合いを示しているだろう。また我々の目標を広範囲に追求するにあたっての基盤となろう。